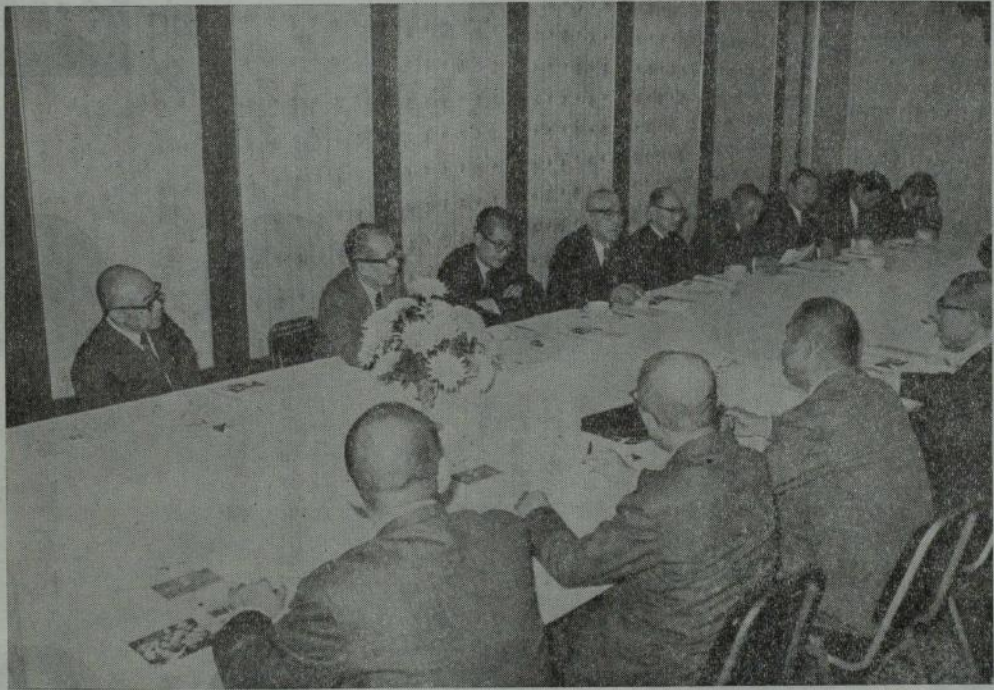


NO. 193

全 仏

12 / 48



全仏大会の反省会——11月6日・上野タカラホテル

インド日本寺の落慶式へ

全仏法要団出発

三日羽田 一行三十四名

来る十二月八日、インド日本寺の落慶式を主催して厳修する全日本仏教法要団は、麻布照海事務総長を団長に一行三十四名で組織され、三日(月)午後十二時四十五分発のインド航空三三〇三便でインドへ向けて出発する。

ナレス、クシナガラ、アグラ、ニューデリーを見学して、十六日(日)午後十時四十分、インド航空三三〇便で羽田に帰ってくる。

大導師をおつとめになる佐藤泰舜会長 視下は、桜井全仏事務次長ら随行者六名とともに、おかれて五日(水)午前十一時三十分、日本航空四五便で羽田をたち、八日の落慶式後十一日までメインクループと行動を共にしたあと、十四日(金)午後九時五十分、日本航空四六二便で一足先に帰国される。

佐藤会長は五日に



(副団長) 桜井 大乗
全日本仏教会事務次長
曹洞宗慈眼寺
東京都港区三田四一
三一二四



(名誉会長) 佐藤 泰舜
全日本仏教会々長
曹洞宗管長
福井県吉田郡永平寺
町 大本山永平寺



(副団長) 鱒淵 正浩
全日本仏教会総務局長
浄土宗浄鏡寺
栃木県宇都宮市杉原
町三二五



(団長) 麻布 照海
全日本仏教会事務総長
本願寺派善福寺
東京都港区元麻布一
一六一二



堪山 泰学
曹洞宗建明寺
群馬県利根郡水上町
湯原九八五



近江 広太郎
仏舎利苑 会社員
京都府長岡京市竹の
台二 F三三〇六



鶴 銅 慶 範
浄土宗西山深草派極
楽寺
京都市中京区裏寺町
六角下ル裏寺町五八
六



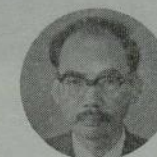
稲垣 左十郎
公衆浴場経営
東京都北区東田端一
一一二二六



(団員) 呼上 智仁
曹洞宗大徳寺
長野県中野市大字片
塩八七一



竹園 文雄
真宗大谷派善龍寺
石川県輪島市河井町
一部九一一



佐藤 浩一
農林業
徳島県三好郡三野町
太刀野山三七四二



佐藤 晃
千葉県松戸市上本郷
二三八一



斎藤 最子
兵庫県西宮市樋の池
町二五二八一三二〇



北川 洪才
浄土宗源法寺
東京都江戸川区東小
松川二四三四九

田所 栄治



会社役員
東京都千代田区西神
田二一五十二

田中 賢順



天台宗大雄寺
群馬県甘楽郡南牧村
六車一五〇〇

田中 瑞欄



融通念仏宗興善寺
奈良県山辺郡都祁村
白石二五一八

津谷 八重子



兵庫県西宮市高座町
一五一四八

永井 修



真宗大谷派西蓮寺
千葉県松戸市松戸一
九〇〇

中川 順孝



黒谷浄土宗林照寺
滋賀県甲賀郡甲賀町
大久保二二三

中川 龍憲



融通念仏宗常楽寺
奈良県磯城郡川西村
結崎五九一三五

益永 普行



本願寺派善覚寺
福岡県福岡市西区徳
永九七二

松田 亮三



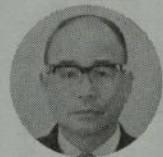
曹洞宗円応院
長野県伊那市美篤区
三八八八

松涛 信城



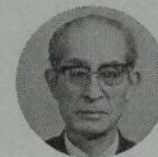
真宗大谷派西念寺
滋賀県野洲郡中主町
吉川一一五一

宮城 太利治



宮城鋼貝KK
東京都中野区白鷺二
一三一六一六

宮地 照太



会社員
東京都板橋区大山西
町四三一一三

茂木 隆応



智山派増明院
東京都大田区鶴の木
一一一五五

矢野 岩雄



別府老人ホーム次長
大分県別府市鶴見町
八組

矢野 春海



同夫人

山田 二三雄



梅金商店
愛知県名古屋市中区
大須三三三九一三三

吉野 才智



農業
東京都稲城市大丸八
七六

(事務長) 黒川 孝樹



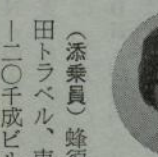
全日本仏教会国際文
化部長
東京都台東区東上野
六一四一一二

(会計) 和田 龍 宏



全日本仏教会財務部
長
神奈川県川崎市中原
区今井南町二四七

(会計庶務) 林 恵智子



全日本仏教会財務主
事
東京都豊島区南長崎
六一九一一二大平
方
(添乗員) 蜂須賀大、東谷知子、千代
田トラベル、東京都港区南青山五一六
一一〇千成ビル

「生命科学と仏教」シンポジウムを終わって

(完)

改めて思うその接点

真 溪 義 貫



生命の起源についてはまだまだ謎に包まれた部分もあるであろうが、ともかく一応の説明が各種の実験を

通して納得されている。第一回のシンポジウムでは、江上博士から長い歴史を経て生じた「生命」、その生命現象の特性について基本的な説明を受けた。今ここで極めて簡単に復習してみると次のようなものである。

即ち生物と無生物の相違は(1)代謝をしていること。つまり高等な生物では呼吸とか、栄養の摂取とかいうことであるが但しウイルスのようなものでは、この機能を宿主に借りている場合もある。(2)自分と同じものを作り、種族を保存する。これが二大特徴である。このことを生理学者ホルデンは「正常で他のものと区別される形の積極的な保存」という言葉で生物の特性と定義している。しかし、親に似ない子が出ることもあるのでこれを「突然変異」といい、それがその時

代に環境に適應する場合は生き長らえるし、適應しない場合は滅亡する。これを「自然淘汰」といっている。このことは今日まで生きたもの、また生きているもの特性を表わすものであるが、その説明は全部とは言えないにしてもダーウィンの進化論が解答を与えている。

そこで根本的な問題は、代謝をしている自分と同じものを作りこれを保存するメカニズム、特にこの特徴を表わすものになる物質は何かということである。この疑問に答える定説はいくまでもなく「たんぱく質」であって、このたんぱく質こそが代謝という生物の特徴を表わすのに欠くことの出来ない物質である。また、自己複製、つまり遺伝を司る物質は核酸であるという。核酸は一八六九年怪我人の膿から発見されたもので、リボースまたはデオキシリボースという炭素五個をもつ糖と、リン酸またはプリン、ピリミジンなどの塩素から構成されていて、糖とリン酸にプリンかピリミジンが結合したものをヌリレオチドと呼ばれ、核酸の一位位である。そして糖の種類に

よってリボースならRNA、デオキシリボースならDNAと呼ばれている。RNAを遺伝子としている生物も発見されているが、DNAを遺伝子とする生物でも、その遺伝子の性質が現われるためには、DNAからRNAに遺伝記号が写しとられ、このRNAが核外に出ることが知られている。そしてDNA、RNAの双方にプリン、ピリミジンそれぞれ四種類があるといわれており、アデニン、グアニン、チミン、シトシンの四がそれである。この頭文字を取ってC、T、A、Gと略称されているが、この四つの文字の任意の三つの組合せ、例えばCAT、TAG、GATなどが遺伝の言葉であり、一つの生物についての遺伝の言葉は、数千から数十億の言葉の単位が繋がっていると考えられている。そしてこのDNAがその生物の生きるために必要な全ての指令を出している。我々哺乳動物の一つの細胞には、約三万個の文字(三文字で一つの言葉)、従って一万个の言葉を集録した核酸分子が三千万個もあるという訳である。

このような仕組みで、それぞれの生物の構造、機能もその細胞のDNAの中に遺伝記号として書かれている文章によって支配されているという、DNAについての生物の遺伝現象を理解する上で極めて重要な研究を、ウィルキンスが撮ったDNAのX線写真に基いて一九五三年に発表されたのが有名なワトソンとクリックの「DNAの構造」である。この遺伝子DNAが複製される機構、仕組みについては江上博士から詳細な説明が行われ、仏教側の学者群は今更ながら分子生物学のめざましい発展に驚きの目を見張った。

さて、一方代謝の役割を司るたんぱく質であるが、たんぱく質は発見された一八三九年当時はプロテインと名づけられた。たんぱく質はすべての生物の第一人者の動きをするものということで、ラテン語のプロテイオス(第一人者)をあてはめたということであるが、生物の代謝作用のほか、運動や構造づくりの役割もしている。たんぱく質はアミノ酸が連なって出来ていることが判明したのは一八〇六年であり、天然のたんぱく質を構成するアミノ酸には色々の種類があるが最後のものが見つかったのはまだ三十数年前のことである、天然に存在するアミノ酸は約二十種類であるといわれている。

仏教の深さに驚く

アミノ酸はアミノ基といわれるアルカリ性を示す部分と有機酸基といわれる酸性を示す部分をかねそなえている。すでに生命の起源についての個所で原始地球でアミノ酸がつくられていたことを述べたが、低分子の物質がどのようにして繋りあって、たんぱく質や核酸のような巨大分子になっていったかを探ることは生命科学にとっても仏教の諸処因縁論に

とっても極めて重要な問題である。

このように生命に欠くことの出来ない物質が地球形成の長い時間のなかで化学反応をつづけた結果、生命の華々しい開幕とはなった訳であるが、もちろん原始生命は現在の生物のようなものではなく、海中などの有機物を吸収して、これを発酵のかたちで分解し、その際放出されるエネルギーで生きていたと想像されている。しかし、もしもそうだとすると海中の有機物を食べ尽くしてやがては生命の危機が到来した筈であるが、この危機に当ってクロレラなどの下等なソウ類が出現し、これが持った葉緑素は太陽の光を利用して炭酸ガスと水から有機物を合成（光合成）して増殖した。即ちこの緑のソウ類によって地球上には大量の酸素が放出され、呼吸生物への進化出現を見た」と説明されている。しかも原始的な発酵型の生物にくらべてエネルギー発生は一挙に十四倍に増えたといわれている。つまり、高等生物の細胞内ではグルコースは呼吸による酸素で完全に分解されて炭酸ガスと水になる訳である。このことが生物を飛躍的に発展させた原因であろう。そしてこのような精力的な生命の発電所をミトコンドリアといっている。

しかしこの近代兵器も決して原始生物から全く独立したものではなく、発酵という原始的エネルギー発生装置を土台に進化したものであり、発酵から得られるエネルギーも呼吸から得られるエネルギーも同様にATP（アデノシン三リン

酸）という物質に蓄えられることには変わりはない。酸素を必要としない嫌気性生物は単細胞であり、地下二千メートルに住んで石油を食べるバクテリアもやはりATPにエネルギーを蓄えることを考えると、人間にまで進化した我々も背後には長い長い歴史を持つことに感慨無量なものがある。生物はすべて同根であると感じて見ると仏教思想の深さにも今更ながら驚くのである。ただ我々のシンボジウムで、生物は同根であるという認識に立って仏教思想の内容、或いは生命観が十分に説明されなかったことは残念であった。

科学的知見に学ぶ

禁殺生、悉皆成仏などもライフ・サイエンスの知見を裏付けて説明するともっと仏教が現代的に説明できるのではないだろうか。世界とその歴史は、はてしない過去から果しなき未来へと流れゆく。所謂無始無終であって、この流れの中にあつて諸要素がむすばれ、そしてはぐれてゆくのみであつて、物質も人間も、そして、その心も単に現象の一つにすぎない。この現象が展開する相を違観することによって「流れ」から解脱することが仏教の原理であるかも知れないが、展開された種々なる相は決して人間そのものにとつて無関係ではなく、過去の歴史的な相の一片一片を科学的に理解することなくして「解脱」もあり得ない。この意味で仏教はよりよく生命科学の知

見を学習すべきだと思う。

発酵の形式を取っていた生命現象が危機を招いたとき、直径僅かに三ミクロン（一ミクロンは千分の一ミリ）という単細胞の緑ソウに救われ、光合成によって酸素呼吸形式の生命へと進化し、更に海中から生命の上陸が行われて現在のような二百万種に及ぶ生物が出現した。進化の歴史を詳細に知れば知るほど、単にこれを「無常の影」或いは「業」のしからしむるところと観念的に言いつけて事足りるのかどうか。幸いにキリスト教のように進化論を否定しない仏教だけに尚更仏教はこの科学的知見に学ぶべきであることが痛感される。

その一方で宇宙塵のなかの簡単な有機物が地球の形成進化にともなつて複雑となり、原始の海（オパーリンをはじめ多くの分子生物学者が支持している）で生命活動がはじまり、時代ともに分枝が行われて人間にまで進化する。この間細胞から多細胞へ、海から陸へ、そして恐龍時代の出現とその滅亡、更に哺乳動物の登場と生物の進化劇、栄枯盛衰の諸相は、正に「運命の女神」の神話にも似てはいるが、運命とは一体何か。このことは科学的知見では説明出来ない筈である。では果してこのシンボジウムで仏教が原始生物から人類まで綿々としてつづく「生命の糸」に対して哲学的基礎を与えてくれたかどうか。この点、必ずしも

満足し得るものではなかった。多数多様な生物も、分子のレベルに分

解すれば、たんばく質と核酸で結ばれた共通の仲間であることを知った。ここから生命科学の新しい研究が始められた。しかし人間が他の生物と区別される大きな事柄は、人間の精神であるとされ、この問題については、前号の記要で解説したので割愛するが、いずれにしてもまだ確固とした結論が出ている訳ではない。ただ我々は一番重要であると思うことは、所謂ハードウェア一遍倒の究明の増殖では決して人類に幸福をもたらさないうことである。

さる十一月中旬、東京において世界の各分野の学者が「人間の価値と科学」というテーマでシンボジウムを開催したことも、この間の事情を物語るものである。また科学技術庁のライフ・サイエンス研究推進センターでも、生物学的、医学的のみならず、精神的、心理的、社会的な面からする解明を重視していることも、ソフト・サイエンスを尊重しはじめたからであろう。

生命科学の研究には是非とも哲学、宗教などの人文科学側のプロゼクトの参加を強調したいものである。生命科学が分子レベルで発出したことによって驚異的な進展を見せている。分子は言うまでもなく物質であり、従つて生命を物理的法則の中で把える研究が中心であるが、問題は、それでは物質とは何かという極めて素朴には見えるが重要な疑問である。

現代物理学では、結局物質とはエネルギーを持った「あるもの」という答しか

出していない。つまり最も具象的でなければならぬ物質が極めて抽象的な言葉しか表現されていない。

このことは如何に自然が深いものであるかを物語るものであり、自然を理解することの困難さを示すものである。それ故にこそ科学にも自然理解の限界があるわけであろう。

現代の物理学者は宇宙には客観的に「あるもの」が存在すると考えている。その「あるもの」とはエネルギーのことであるが、しかしこのエネルギー存在の必然性については明かに出来ないでい

る。ただ、このエネルギーを具現した最小単位は素粒子だという。つまり素粒子一元論とでも言うべきか。しかし、この素粒子は永久不変のものではなく、つねに死し、また生れていて生滅きわまりない性質をもっている。これが万物流転の原因である。

しかも素粒子の存在する必然性もエネルギーと同様解明されてはいない。こうなると素粒子一元論も根底が動揺するので、さらに超素粒子論のイマジネーションも拒否されるべきではないであろう。何故なら霊というようなものは、素粒子一

元論では完全に否定せざるを得ないからである。ここで最も留意しなければならぬことは、既知の世界と矛盾することなく展開される世界観でなければならぬことである。仏教はその世界観において、科学的知見や既知の知識を無視することなく、これを包摂しながら物質と心が融合した唯一究極的自然の本姿究明に役立つべきだと思ふ。この意味で三回にわたるシンポジウムは、生命科学と仏教の接点を改めて発見した極めて意義深いものであったと言えよう。(全仏文化専門委員長)

全仏の役員改選

一月十日に

常務理事会開く

財団法人全日本仏教会常務理事会は、さる十一月九日午後一時より東京本願寺記念館において開催された。当日は、代理を含めて十一名の出席があり、提出された議案について慎重なる審議を行い、午後三時過ぎ閉会した。

議案第一号 真言宗醍醐派加盟申請について
かねてより申請のあった真言宗醍醐派の加盟について審議、万場一致で承認した。(詳細については別記事)
議案第二号 任期満了に伴う評議員会等

(写真は記念館で開かれた常務理事会)

開催について
インド日本寺落慶法要団派遣等諸般の事情により、役員改選のための評議員会を明年一月十七日に開催することに決定。

議案第三号 補正予算について
一部訂正の上承認。
議案第四号 参議院議員選挙について
第一次締切までに加盟団体より推薦のあった十三名の立候補者について審議全員推薦することに決定。
なお、推薦した方の氏名・略歴は後日改めて本紙に発表致します。
議案第五号 玄奘大師聖骨の分骨依頼について
薬師寺より依頼のあった玄奘大師聖骨の分骨について審議、安置先の大島師崎玉泉仏等関係者の意見を十分聞いた上で改めて審議することとなった。

真言宗醍醐派が

全仏に加盟

加盟団体二一六に

真言宗各派の中でも大きな教勢を占める醍醐派が、このほど全仏に正式加盟した。これで全仏加盟団体数は一一六団体となった。

醍醐派は京都伏見の醍醐寺を総本山に包括寺院数五〇〇。醍醐山伝法学院、真言宗京都学園(智智院大学、洛南高校)の事業も行っている。

名称 真言宗醍醐派宗務本庁

住所 京都市伏見区醍醐東大路町二十一

〒六〇一一一三

役員 管長 細川英道

宗務総長 岡田有秀

庶務部長 藤原良典

教学部長 斎藤明道

財務部長 岩城秀雄

東京宗務出張所長 仲田順和

報告事項 日本寺法要代表団について

十二月三日出発するインド日本寺法要代表団について国際局より報告があり、承認された。

出席者は左記の通り(順不同敬称略)

末広愛邦・太田淳昭・稲岡寛順・山田

義道・伊藤治雄・工藤義修・貝山宣泰

田中亮三・三井宣雄(渡部公允代理)

椎谷健(岡野正道代理)・小沢照禎

(別所弘因代理)

三重県仏大会

二千五百人集う

さる十月二十八日、三重県仏教会では県内鈴鹿市サーキット体育館に約二千五百の大衆を集めて「人類の危機を救うもの——仏教で」のスローガンのもとに、第三回三重県仏教徒大会「光の法典」を開催した。

真宗高田派管盤井堯棋管長を導師に午前十時から三十分の式典につき、県内各界の有力者及び全仏会長（麻布事務総長代理）の祝辞等につづき「幸福への道」と題して真言宗智山派前管長那須政隆宛下の記念講演をもって大会の幕は下された。当県仏、大会の意気というものは大会の「誓のこぼ」に集約されていると思うのでそれを次に記す。

人類の発生よりここに百万年、その人類の師表として和菜婦依の教導をお示し下されし釈尊の教導を見ること三千年しかる間この教法を日域に伝授せられし和国の教主聖徳太子。この法灯を高く掲げて比叡山をひらかれし伝教大師。大師は「国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり、道心ある人を名づけて国宝となす。古人の云はく経寸十枚是れ国宝に非ず一隅を照らす此れ即ち国宝也」とのたまいて一千有余年。

全 第3種郵便物認可

然るにここ百年この方、我等世界人類の歩を眺めるとき闘争と事故と自然破壊

をもつてし人心とみに薄れ、道義失墜して荒野の靄を呈するに至る。今や政治・経済・教育すべての面において現実人間世界を凝視し再考するの要あるを痛感する。

我等仏教徒として猛省といくばくかの

池上本門寺大会の反省会

会議紀要完成、配布しています

さる六月下旬に開催された第二十一回全日本仏教徒会議池上本門寺大会は、昨今の世相を反映するスローガン、趣旨のもと盛会裡に終わったわけであるが、それには各方面からの様々の意見、批判もあることと思われる。

大会の事後処理をまかされた全仏事務局は十月下旬に大会紀要の作成を終了し、一応の事務処理をすませた。そして大会の成果をより一層挙げるべく、採択された議案を移行に移すための大会反省会を各部長ならびに全仏の各専門委員を招いて、十一月六日、東京上野のタカラホテルに開催した。

実践を決意してここ鈴鹿の地に不滅の法灯をかかげて「光の法典」に集いし二千有余の人々心を合わせて「人類の危機を救うもの——仏教で」を確認するものである。

真溪義實文化専門委員長の座長ですめられた反省会では、細かい点の示唆まではできず、今後、議案処理を付託された各局専門委員会で、もっと細かく検討して実行に移してゆくことを結論として終了した。

なお、池上本門寺大会の会議紀要が完成し、関係方面にはすでに発送しているが、ご希望の方にも配布するので、全仏組織局宛にお申越し頂きたい（無料）。内容は、代表者会議、第一部会、第五部会の各報告、大会関係者の大会随想をのせ、大会スナップをカラーで多数収録している。B五版三十二頁。

県仏会旗を制定 静岡

静岡県仏教会（田中亮三会長）では、懸案であった県仏の会旗が、さる六月の県仏理事会において決議を得て、制定され（写真）このほど奉戴式が十月十九日静岡市曲金法蔵寺を会場に修行された。これは静岡県仏教会が確立されて二十



全仏輪袈裟

こげ茶、法輪マーク付き
¥一、二〇〇円

お寺に仏旗をかかげよう

大 150C—よこ 247C ¥ 4,500円 小 70C—100C ¥ 1,500円
中 90C— 135C ¥ 3,000円 手旗 35C—50C ¥ 800円

別染製 堅牢（全日本仏教会制定意匠登録済）

各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

111 東京都台東区西浅草1-5-5 電話03・843・6341~3

周年を迎えたのを記念して制定されたもので、当日は全仏より桜井事務次長が出席し、奉戴式のと駒大講師田中忠雄先生の記念講演があった。

哀 悼

友松円諦氏（神田寺名誉主僧）

十一月十六日、脳卒中のため東京本郷の東大病院で逝去、七十八歳。告別式は二十三日午後二時から神田寺で執行された。愛知県出身。大正大学、慶応大学で仏教学の教鞭をとる一方、昭和九年ごろNHKで法句経講義を放送、その後真理運動を起すなど、仏教の普及に努め、昭和二十一年神田寺を創建し、一宗一派に属さない自由な新仏教運動を推進した。

昭和二十八年の第二回世界仏教徒会議日本開催に尽力、翌年全日本仏教会結成にあたり、初代事務総長に就任し、全一仏教運動のために活躍された。

事務総局録事（十一月）

二日 浅草寺五重塔落慶仏舍利奉安

昭和四十九年版

仏教徒手帳

申込み受付中

全仏総務局では毎年御好評をいただいております仏教徒必携「全仏手帳」を左記要領にて発行致します。部数に限りがございますので、御注文はお早めにお願ひ致します。

昭和四十八年十一月一日発行
十二月号 第一九三号

式出席

- 六日 全仏大会反省会
- 七日～八日 局内研修会
- 十三日 日本佛法要団説明会
- 十四日 日宗連理事会出席
- 十六日 日蓮宗、本門寺大会御礼挨拶
- 十七日 清水谷大僧正頌寿祝賀会出席
- 十九日 局内会議
- 〃 仏教タイムス社創刊千号記念祝賀会出席
- 二十日 仏青結集打合
- 二十二日 自民党懇談会
- 〃 智山派佛法要団壮行会、仏旗贈呈
- 二十三日 友松円諦氏葬儀
- 二十三日 天台宗ハワイ別院開所式
- 二十五日 法要団壮行会出席
- 二十五日 川崎大師信徒会館落慶式
- 二十八日 国際、文化専門委員会
- 二十九日 組織専門委員会

内容

- 三篇依文、四弘誓願、宗門聖日、宗派・都道府県仏・団体役員住所録、忌日早見表、各県宗教法人事務主管部局一覧その他
- 定価 二五〇円（送料実費）
- 申込先 東京都台東区西浅草一五―五（〒一〇一―）
- 全日本仏教会総務局

発行人 麻布照海 発行所 財団法人
編集人 柳了堅

故鈴木大拙博士ご奉安の涅槃像の美術複製

涅槃図を頒布

ねはん会を盛んにするために

写真は「涅槃図」の部分
一板木は江戸中期のもの



頒布価格 1幅 15,000円(解説付 荷送共)
寸法 ねはん図 60cm×105cm
仮表装出来上り 82cm×170cm

ここにお頒ちする涅槃図は、財団法人松ヶ岡文庫所蔵の板木によって摺ったものを、上質の烏ノ子紙に原寸大でオフセット印刷し、仮表装したものです。この文庫は故鈴木大拙先生の創立にかり、この板木は先生の多数の蔵書と共に「ねはん会を盛んにしたい」という願いをこめて、御存命中に寄進されたものです。これだけ大きい板木を摺ることは今日では不可能に近いので、今回、松ヶ岡文庫のご好意により三百幅だけ限定頒布することになりました。

〒104 東京都中央区湊二ノ十二ノ十五 一世館ビル

株式会社 ブデイスト社

電話(〇三)五五一〇〇九四・〇〇九五
振替 東京 一七一三一九番

申 込 先

日本の宗教界の全貌を収めたわが国初の書
宗教界が
待望の書

日本宗教大鑑

B5版・豪華本 価二二、〇〇〇円
カラー 24頁 (送共)

カラー
絵はがき

インドの仏蹟

書店には出しませんので直接発行所に御申込下さい
池上大会採用 一組 九百円(送共)

全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話(〇三)八四三三 六三三四一(三)